

平成 27 年 3 月 8 日

千葉木鶏クラブ

(358 回 例会)

## 第 2 回 孔子とその生涯

「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」とは、言い古された言葉ですが 70 年前、世界中で二度と戦争はごめんだと思ったはずである。国を司る人たちに歴史から学んでほしいものです。正に「故きを温めて新しきを知る。以て師となるべし」(論語 為政編)。

古典や歴史、特に論語からの教訓は学びの宝庫。

安岡先生の講話、二回目になります。

本クラブは、異業種交流の場として『到知』未読者、どなたでもいつでも歓迎の千葉木鶏クラブです。

皆様のお越しをお待ちしています。

### 記

1. 日 時 : 平成 27 年 3 月 21 (土)

AM 9 時 30 分 ~ 12 時 00 分

2. 場 所 : 千葉生涯学習センター ☎043-207-5811

<交通案内> JR 千葉駅東口から 徒歩 8 分 駐車場有り

3. 会 費 : 1000 円

4. 講 師 :

4. 演 題 : 孔子とその生涯 / 日常生活

5. 講 師 : 安岡 正篤先生

6. レジューメ :

(1) 第二回 孔子とその生涯

- ・ 孔子と南子・公山不
- ・ 特筆すべき政治上の業績
- ・ 日常の飲食

(2) 第三回 日常生活

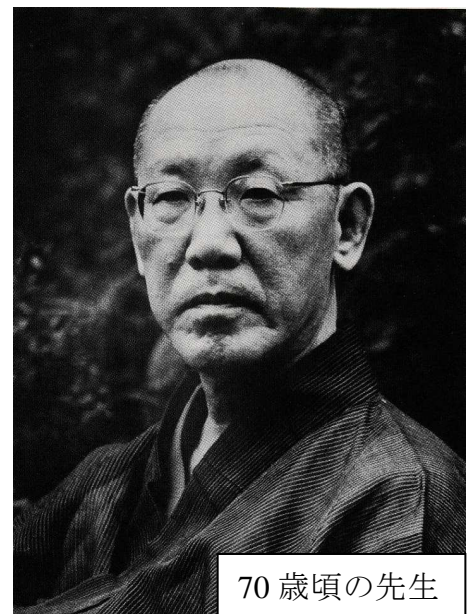
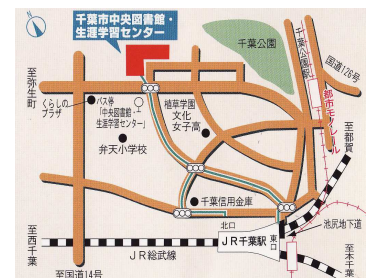
- ・ 学を好むは
- ・ 真の楽しみ
- ・ 士とは
- ・ 野人肌の子
- ・ 賢なるかな回や

注 : 別添資料を参考に勉強しますが『論語』をお持ちの方は持参して頂くとより理解が深まると思います。

千葉木鶏クラブ 代表兼事務局 丸島 忠夫

Email : [marushima\\_t@snow.plala.or.jp](mailto:marushima_t@snow.plala.or.jp)

Tel : 0475-25-1211 Fax: 0475-38-5153



70 歳頃の先生

## 第二回 孔子とその生涯

### <孔子と南子・公山不擾>

○「子、南子を見る。子路、説（よろこ）ばず。夫子、これに矢（ちかい）いて日く、予（わ）が否（しから）ずとするところのものは、天これを厭（ず）てん」。天これを厭てん」  
（雍也第六）

\*南子—衛国の靈公が溺愛した夫人。有名な美男の宋朝などを寵愛して、いろいろ問題の夫人であるが、よほど政治的影響力もあったようである。

○ 公山不擾（ふじょう）、費（ひ）を以て畔（そむく）。召（まね）く。子往かんと欣す。  
子路、説ばずして日く、之（ゆ）く 末（な）からんのみ。何ぞ必ずしも公山氏にこれ之（ゆ）かんや。  
子曰く、夫（そ）れ 我を召す者は、鎧に徒らなるのみならんや。  
如（も）し我を用うる者あらば、吾は其れ東周と為さんか」  
（陽貨第十七）

\*公山不擾（弗擾または不狂）—季氏の費という領地の支配人で、謀反をはかり、孔子を招いたことがる。

### <特筆すべき政治上の業績>

孔子の政治的業績のうちで、もっとも顕著なものは、魯の定公の十年、齊と魯との会議に、魯公を助けて弱国の権威を持たせたことと、その後三勢力家——三桓の横暴を肅清するために、子路を挙用して、三桓の根拠地である三都の廃棄を敢行したことである。

これは最後に、孟孫氏の反対によって失敗に帰し、孔子はついに魯を立ち去らねばならぬことになった。

そして、五十の晩年から六十代を放浪に送り、哀公の十一年、六十九歳でまた魯に帰り、国老の礼をもって遇せられ、七十四歳（あるいは七十三歳）で亡くなった。  
（哀公十六 年西紀四七九）。

その晩年、孔子の政治的見識と胆気を発揮した一事。それは孔子の七十二歳、哀公の十四年、隣りの齊国の勢力家陳恒（成子）がその君の桓公を弑して国内が動揺した時、孔子は魯の哀公に敢然として義戦を興すべしと勧めた。

齊国の内乱と人道的罪悪とは、魯の国勢を回復して民心を作興するのに好機会であった。しかし、哀公は決断できず、また勢力家である三桓にも人材がなく、せつかくの提案もうやむやに終わった。

清の大学者の毛奇齡は「これ正大聖人、経術迂闊ならざるところ」と批評している  
（『論語格求篇』）。

### <日常の飲食>

食（し）は、精を厭（きわ）めず、膾（かい）は細を厭（さわ）めず。

食の鐙（い）して鍋（あい）し、魚の鮓（たい）して肉の敗（ふる）びたるは食（くら）わず。

色の悪しきは食わず。臭いの悪しきは食わず。飪（じん）を失いたるは食わず。

時ならざるは食わず。割（きりめ）正しからざれば食わず。

其の醬を得ざれば食わず。

肉は多しと雖（いえども）も食気（しょくき）に勝たしめず。

唯（ただ）酒は量なし、乱に及ばず。

古酒（こしゅ）市浦（しほ）は食わず。

薑（はじかみ）を撤せずして食う、多くは食わず。

公に祭れば肉を宿せしめず。祭肉は三日を出（い）ださず。

三日を出づれば之を食わず。食うに語らず。

寝（い）ぬるに言わず。

疏食（そし）菜葵瓜（さいこうか）と雖も祭るに必ず齊如（さいじょ）たり。

（郷党第十）

## 第三回 日常生活

### <学を好むとは>

子曰く、君子食飽くを求むること無く、居安きを求むる無し。事に敏にして言にして慎しみ、有道に就きて正す。学を好むと謂うべきのみ。 **学而（がくじ） 第一**

### <真の楽しみ>

子曰く、蔬食（そし）を飯（くら）い、水を飲み、肱（ひじ）を曲げて之を枕とす。楽しみも亦其の中に有り。不義にして富み且つ貴きは、我に於いて浮雲の如し。 **述而（じゅつじ） 第七**

### <士とは>

子曰く、士にして居を懐（おも）うは、以って士と為すに足らず。 **（憲問 第十四）**  
子曰く、士・道に志して、悪衣悪食を恥ずる者は、未だ与（とも）に議（はか）るに足らざるなり。 **（里仁（りじん） 第四）**

### <野人肌の子>

子曰く、敝（やぶ）れたる縵袍（おんぼう）を衣（き）て、狐貉（こかく）を衣たる者と立ちて恥じざる者は、其れ。由（ゆう）なる与（か）。  
伎（そこな）わず、求（むさぼ）らず、何を用（もつ）てか臧（よ）からざらん。子路終身之を誦（しょう）す。士曰く、是の道や、何ぞ以って臧しとするに足らんと **（子罕 第九）**

\* 由——門人の子路の名前。

\* 伎（そこな）わず、求（むさぼ）らず、何を用（もつ）てか臧（よ）からざらん——詩経「伎（そこな）わず」とは、つまらぬことで人にねたんで傷つけるようなことを言う。「求る」とは飽くことを知らず欲を出すこと。

### <賢（けん）なるかな回や>

子曰く、賢なるかな。回や。一簞（たん）の食、一瓢（びょう）の飲、陋巷（ろうこう）に在り。人・其の憂いに堪えず。回や其の楽しみを攻めず。賢なるかな回や。 **（雍也 第六）**

\* 回——顔回、子路の後輩で孔子より30歳から40歳若いと言われている。

以 上